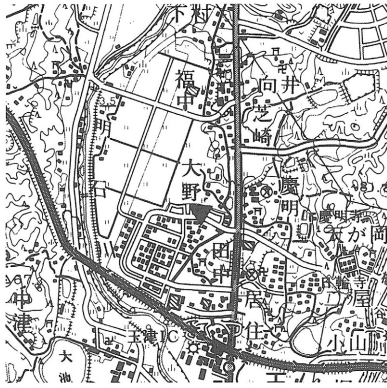


兵庫・玉津田中遺跡  
たまつたなか



(高砂)

玉津田中遺跡は、明石川中流域左岸の沖積地から埋没段丘上に立地している。土地区画整理事業に伴い、一九八二年から一九九一年にかけて、約八haを発掘調査した。沖積地では平安時代以降に条里型地割が施され、集落域も調査されている。辻ケ内一区に位置する平安時代後期の方形居館内の円形

- 1 所在地 兵庫県神戸市西区宮下三丁目(旧玉津町田中)
- 2 調査期間 第一四次調査 一九九一年(平3) 五月～一〇月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
- 4 調査担当者 中川 渉・廣野 誠・多賀茂治・鈴木敬二  
 深江英憲
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代晩期～古墳時代、平安時代後期～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

土坑からは、呪符木簡が一点出土している(本誌第八号)。

今回報告する呪符木簡一点は、埋没段丘上にあたる唐土一五区の井戸SE八四〇〇一の底から出土した。当該期の集落域は条里が及んでいない段丘上に移っており、居住域の中心は現存集落と重なっているものとみられる。この井戸は円形素掘りで、上面直径一・八m底面直径〇・九m、検出面からの深さ二・〇mである。内部に井側や桝などの構造は認められなかった。埋土の上半は人為的に埋め戻され、底近くの埋土は自然堆積とみられるシルト層であった。埋め戻し土からは一四世紀代の土師器・須恵器が出土した。

8 木簡の釈文・内容

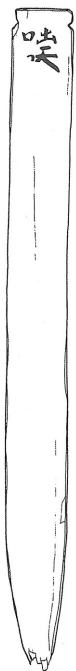
(1) 「咄吠」

(168)×42×6 033

木簡は一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせた形態で、尖端を欠失している。樹種はスギで、板目材を使用している。墨書は片面の頭に「咄吠」の二文字が判読できたのみである。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『玉津田中遺跡―第三分冊―』(兵庫県文化財調査報告一三五―三、一九九五年)



(中川 渉)